学術情報基盤オープンフォーラム2023

認証トラック3

学認対応 IdP ホスティングサービスについて
国立研究機関の事例

上野悟，星佳芳

国立保健医療科学院 保健医療情報政策研究センター

学術情報基盤オープンフォーラム2023　COI開示

認証トラック3

学認対応 IdP ホスティングサービスについて

国立研究機関の事例

上野悟，星佳芳

演題発表に関連し、発表者らに開示すべき
COI関係にある企業などはありません。

背景｜
国立保健医療科学院　概略

国立保健医療科学院の使命

国立保健医療科学院ホームページから御参照ください。

https://www.niph.go.jp/information/pamphlet2021.pdf

背景｜
国立保健医療科学院　概略

国立保健医療科学院の沿革

国立保健医療科学院ホームページから御参照ください。

https://www.niph.go.jp/information/pamphlet2021.pdf

背景｜
国立保健医療科学院　組織図

科学院のご紹介 -組織図-

国立保健医療科学院ホームページから御参照ください。

https://www.niph.go.jp/soshiki/soshikizu/

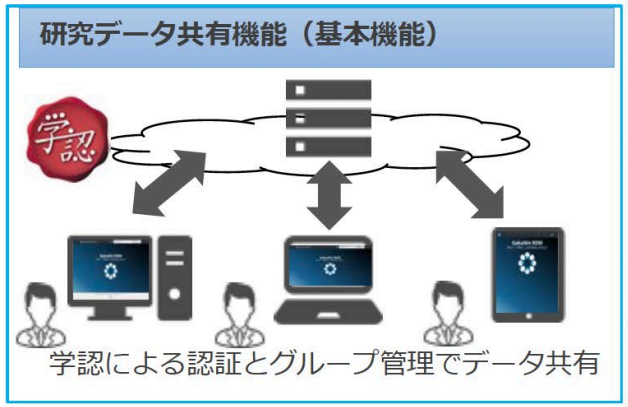
背景｜
国立保健医療科学院　研修・研究

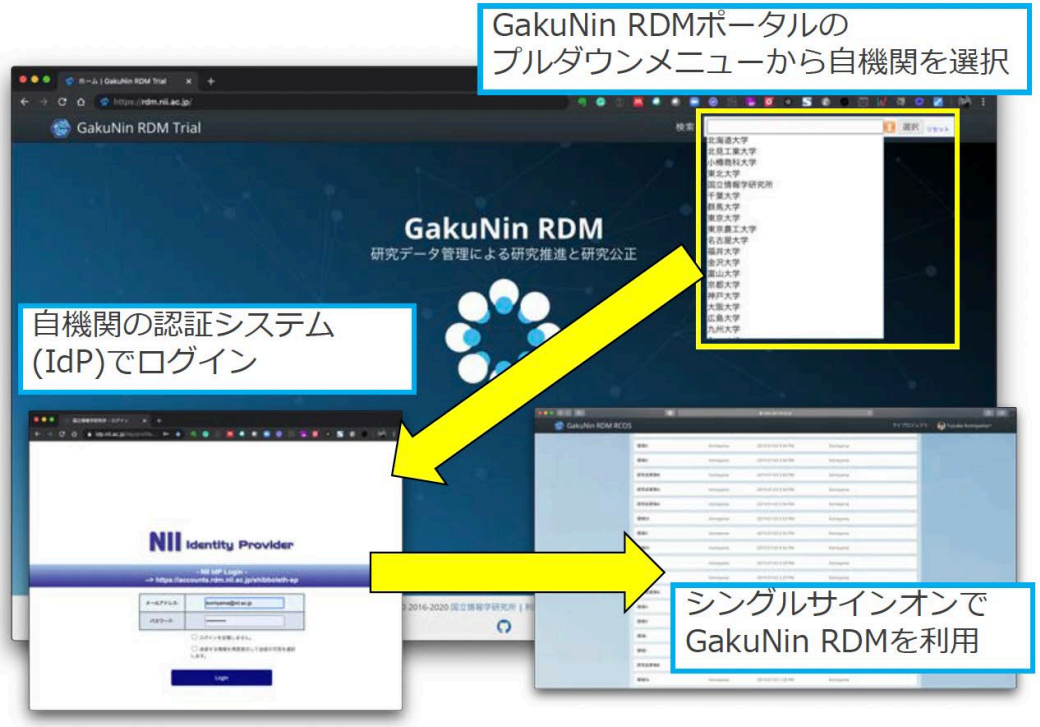
人材育成プログラム　　調査研究

国立保健医療科学院ホームページから御参照ください。

https://www.niph.go.jp/information/pamphlet2021.pdf

背景｜
研究データ管理サービス　学認フェデレーション参加のIdPが必要



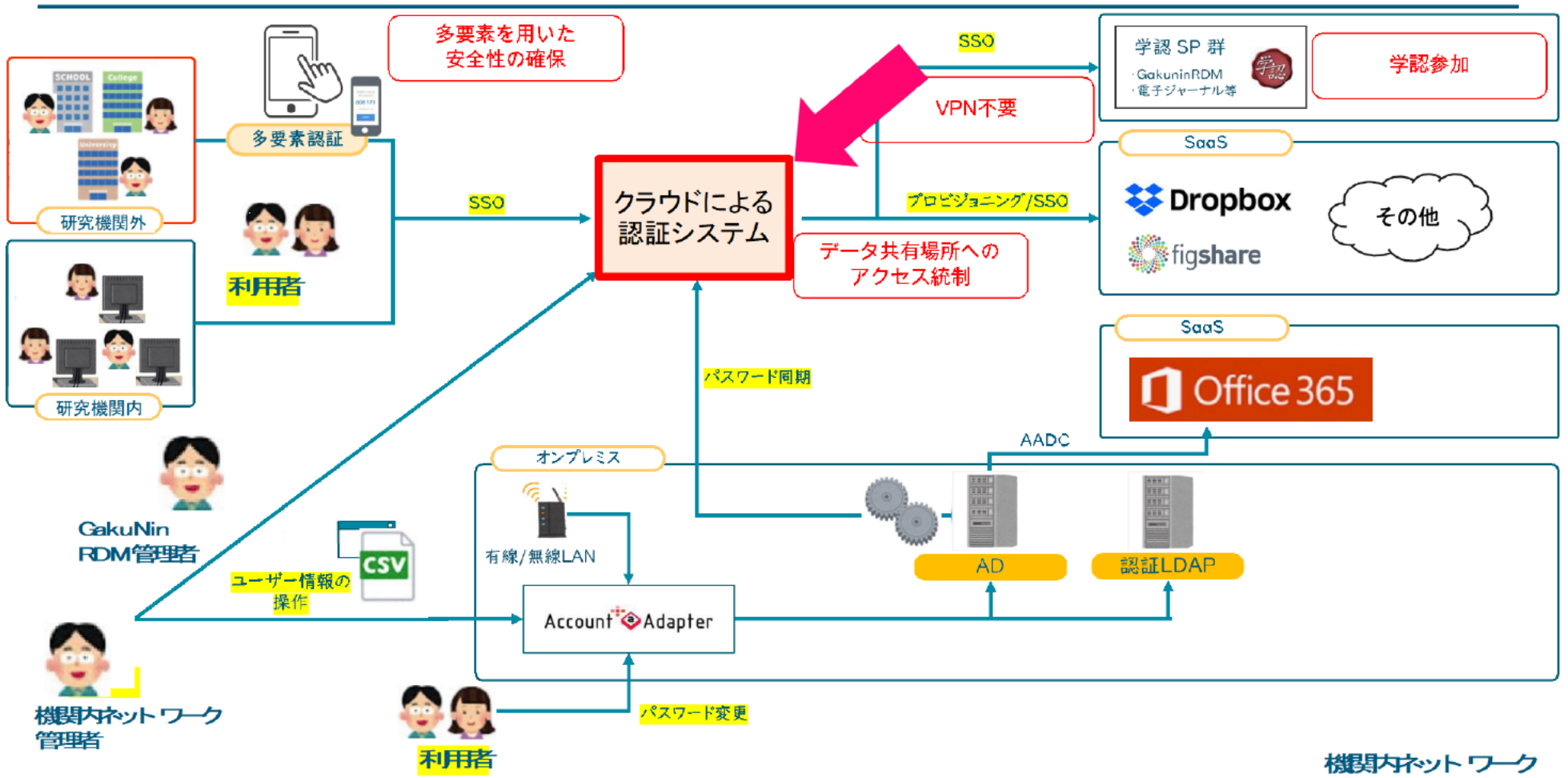


GRDMでは、学術認証（学認）フェデレーションにサービスプロバイダ（SP）として登録済みのため、学認に参加していればアイデンティティプロバイダ（IdP）連携のみで導入が可能

https://www.nii.ac.jp/openforum/upload/2-2_setsumeikai20211117_grdm.pdf

構想｜
GakuNin RDMサービス利用にあたり必要となる環境

1．学認フェデレーション参加のIdPの導入



https://www.nii.ac.jp/openforum/upload/2-2_setsumeikai20211117_grdm.pdf

構想｜
GakuNin RDMサービス利用にあたり必要となる環境

学認フェデレーション参加のIdPの導入

学認連携可能なIdPとの連携方法

a. 自施設にて学認連携可能なIdPサーバ（オンプレミス）を設置、維持、管理
b. 既存のサービスを導入して、学認連携可能なIdPを利用

問題

a. 設置：専門的な知識、経験が必要
   維持管理：継続的なメンテナンスが必要
b. 費用確保し続けられるか

→システム専門部署がなく、人材確保困難
→費用の面からも、オンプレミスは難しい

課題、検討事項

認証システムに対する要望

- 既存のネットワークや認証システム（LDAP等）と連携したい
- しかし、既存のネットワークが止まることは避けたい

課題

- 機関内の認証サーバーとの連携ができないと、ID/PWが異なるので管理が大変
- 普及するには現状以上の利便性と使いやすさが必要

→既存のサービスを導入
→既存のネットワークを考慮し、スモールスタートを目指す

事例紹介｜
学認対応IdPホスティングサービス実証実験　スケジュール

- **2023/01/30**　**学認対応IdPホスティングサービス実証実験 参加機関募集のご案内**
- 2023/01/31　学認対応IdPホスティングサービス実証実験 参加希望連絡
- 2023/02/01　お問合せフォームを受領の返信

- **2023/02/15**　**お申込み期限：2023年2月28日　⇒ 2023年2月17日**
  （お申込み多数のため、早期に締め切らせていただきます。　2月15日更新）

- 2023/02　学認対応IdPホスティングサービス実証実験 打合せ

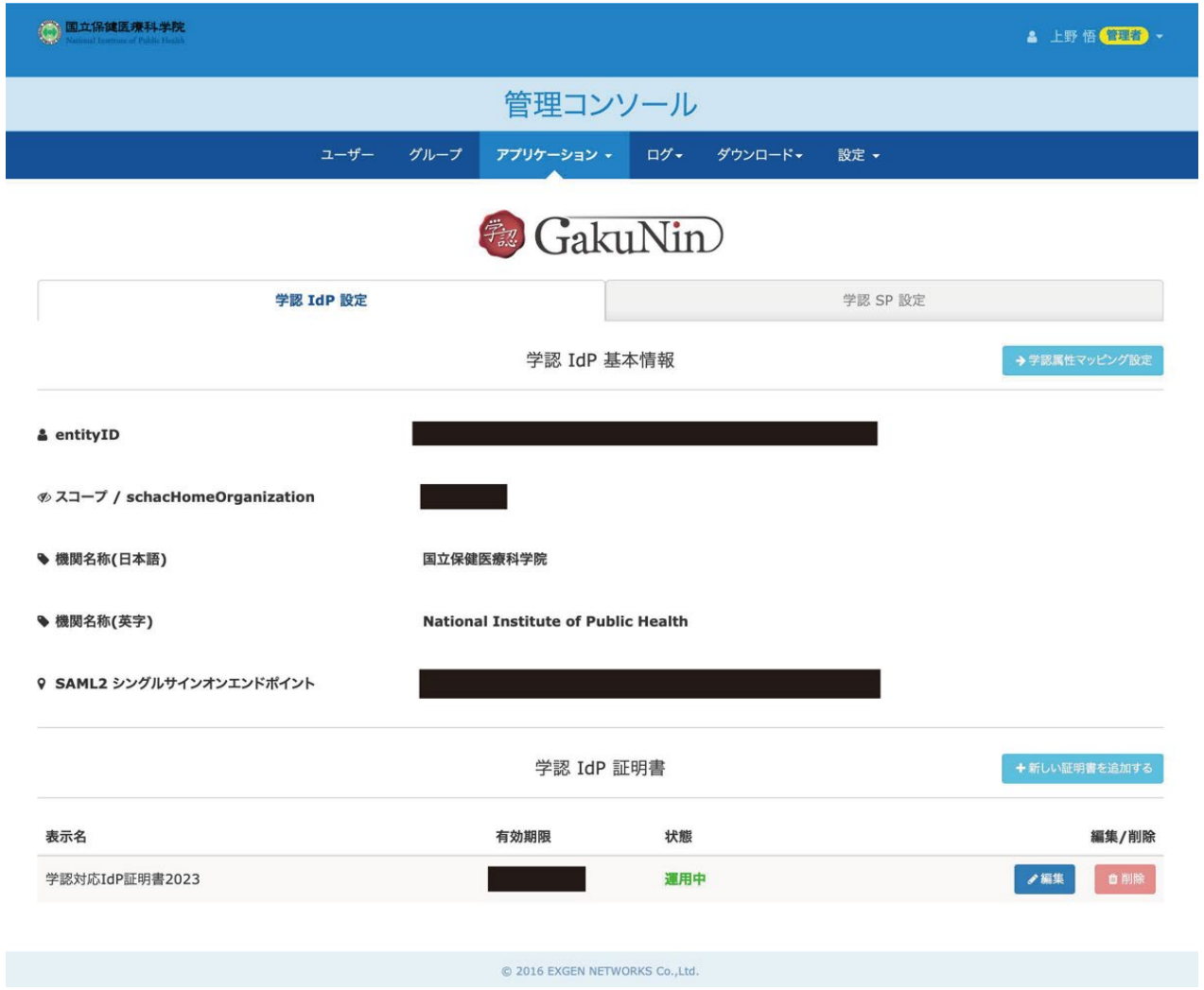
- 2023/03/07　学認対応IdPホスティングサービス実証実験 選考結果のご連絡

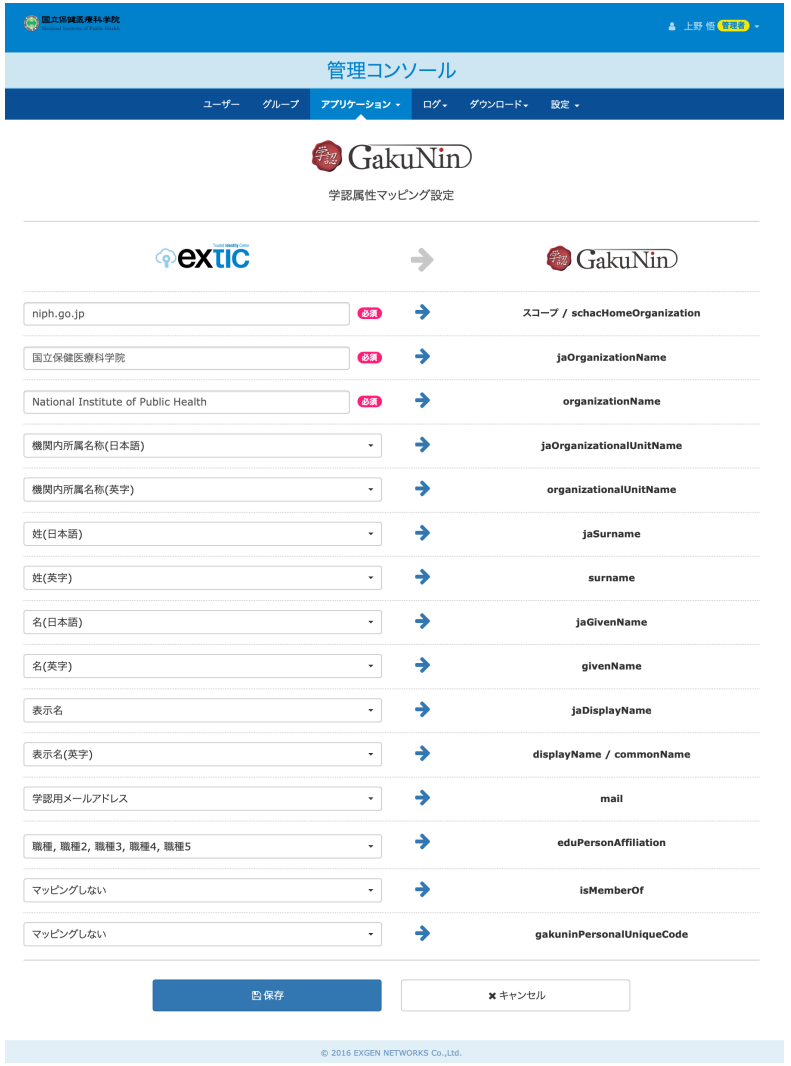
- 2023/03/08　学認対応IdPホスティングサービス実証実験 事務局と連絡開始
  - 関連サービスの申し込み手続き
  - SP接続先の検討
    - GakuNin RDMの利用申請
    - 機関ストレージの設定
  - SP接続先の設定確認　など

https://www.gakunin.jp/node/687

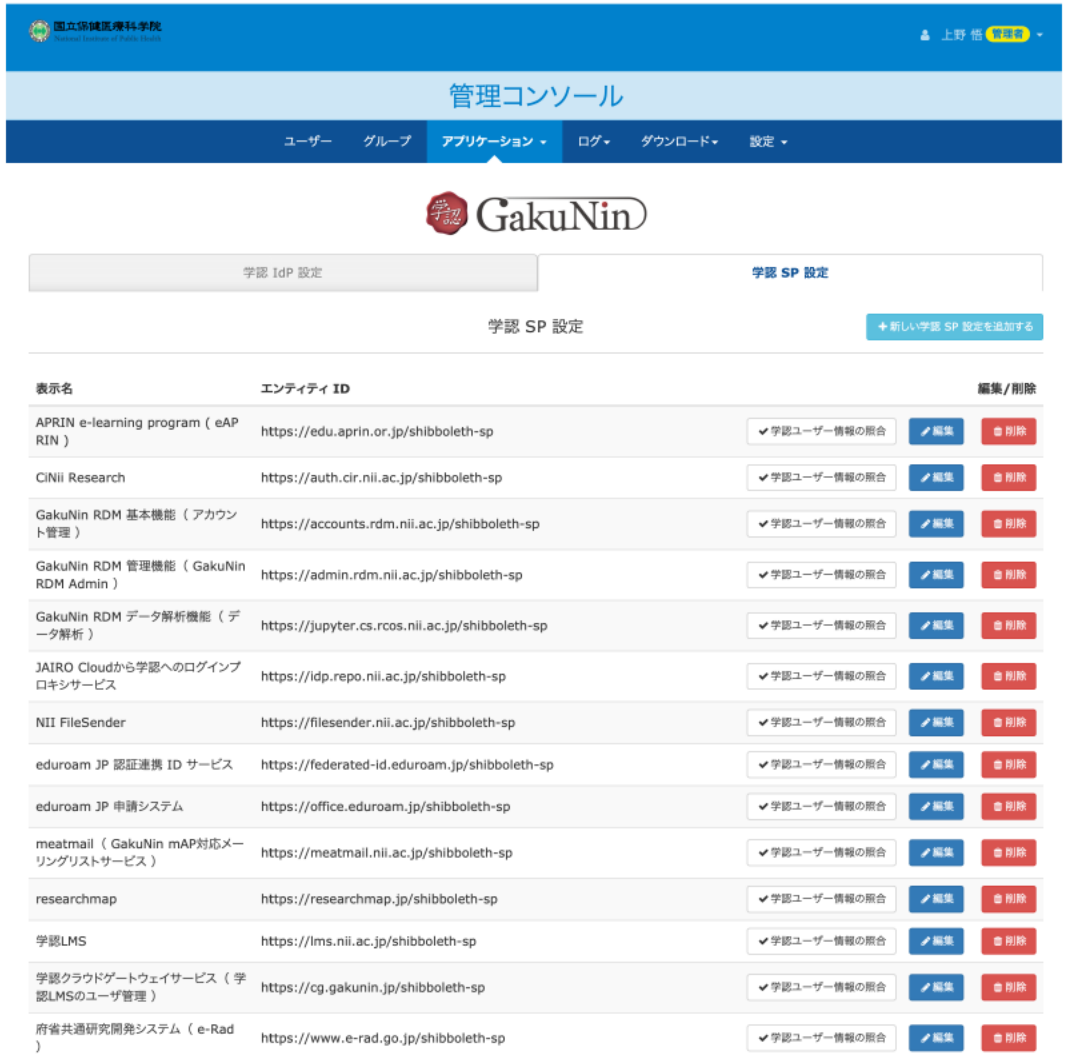
事例紹介｜
学認対応IdPホスティングサービス　ログイン画面のイメージ

事例紹介｜
学認対応IdPホスティングサービス　IdP設定



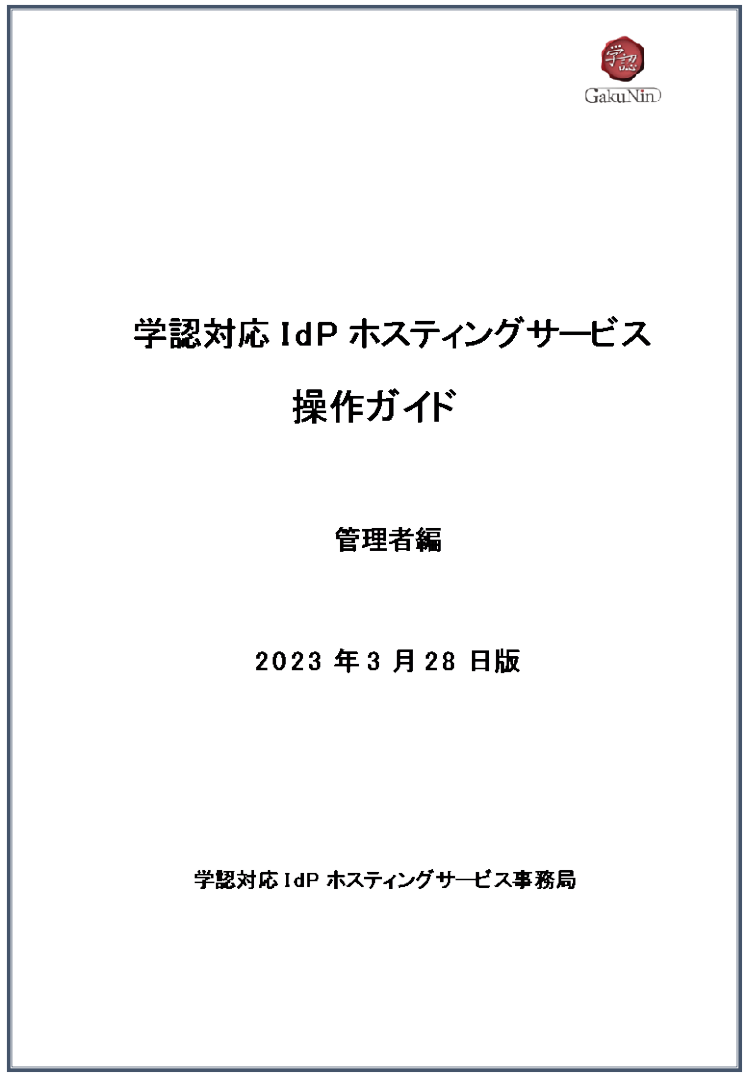


事例紹介｜
学認対応IdPホスティングサービス　SP設定



https://www.gakunin.jp/participants

事例紹介｜
学認対応IdPホスティングサービス　操作ガイド（管理者編）



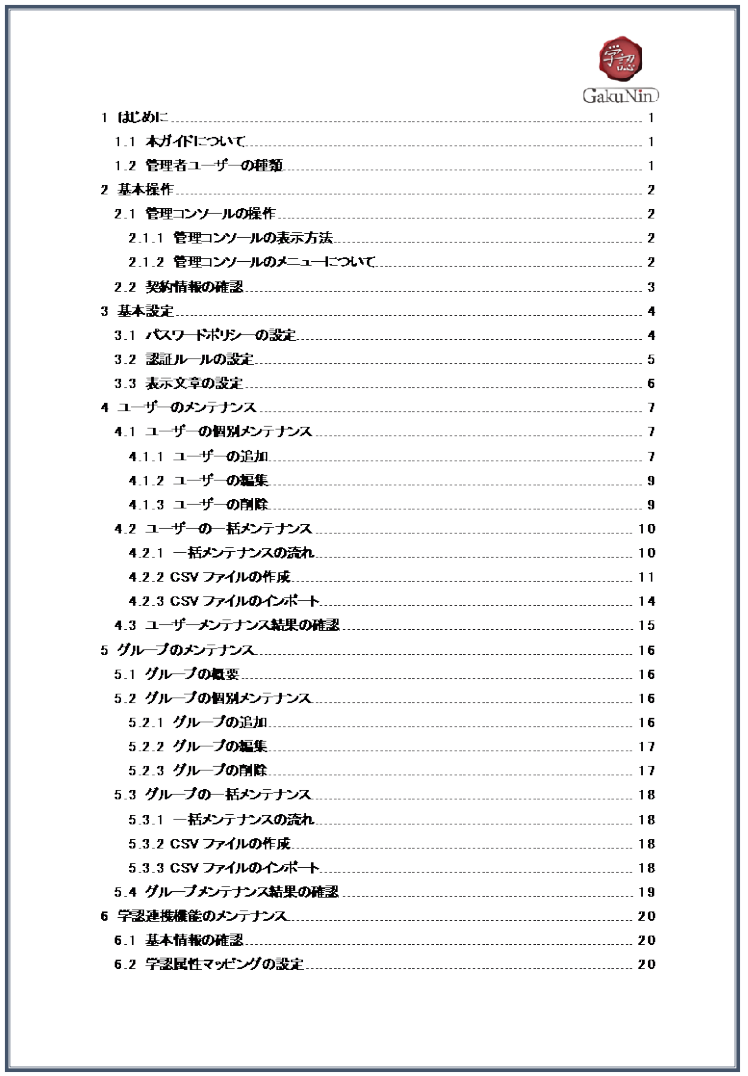
学認対応 IdP ホスティングサービス

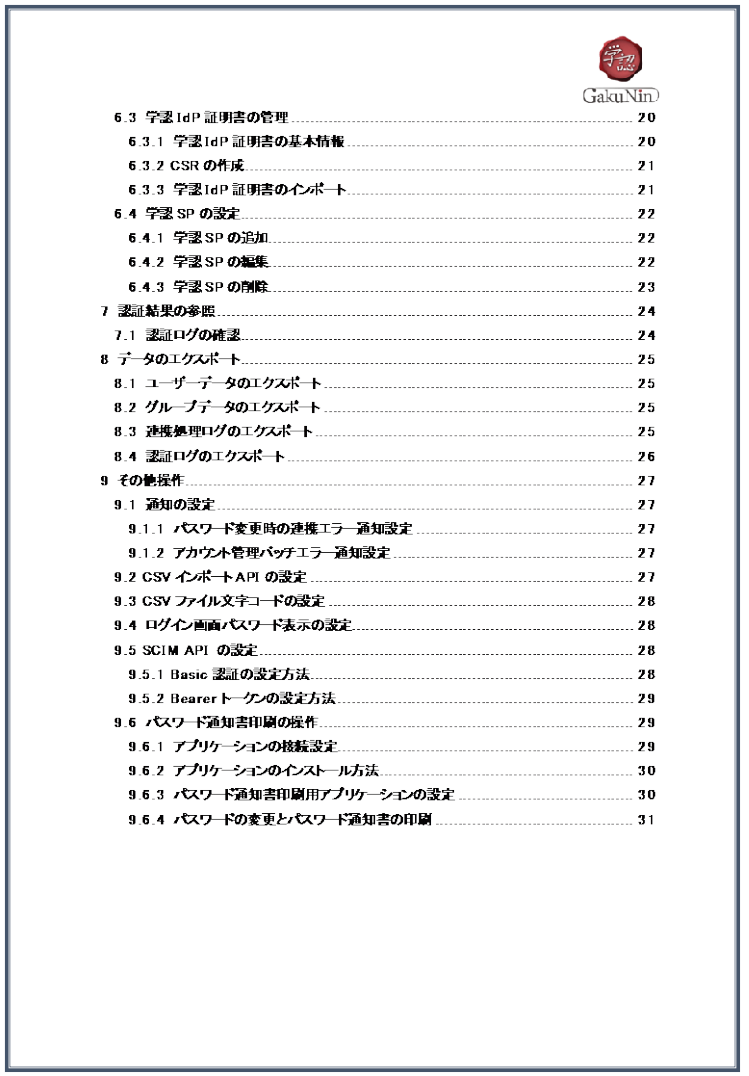
操作ガイド

管理者編

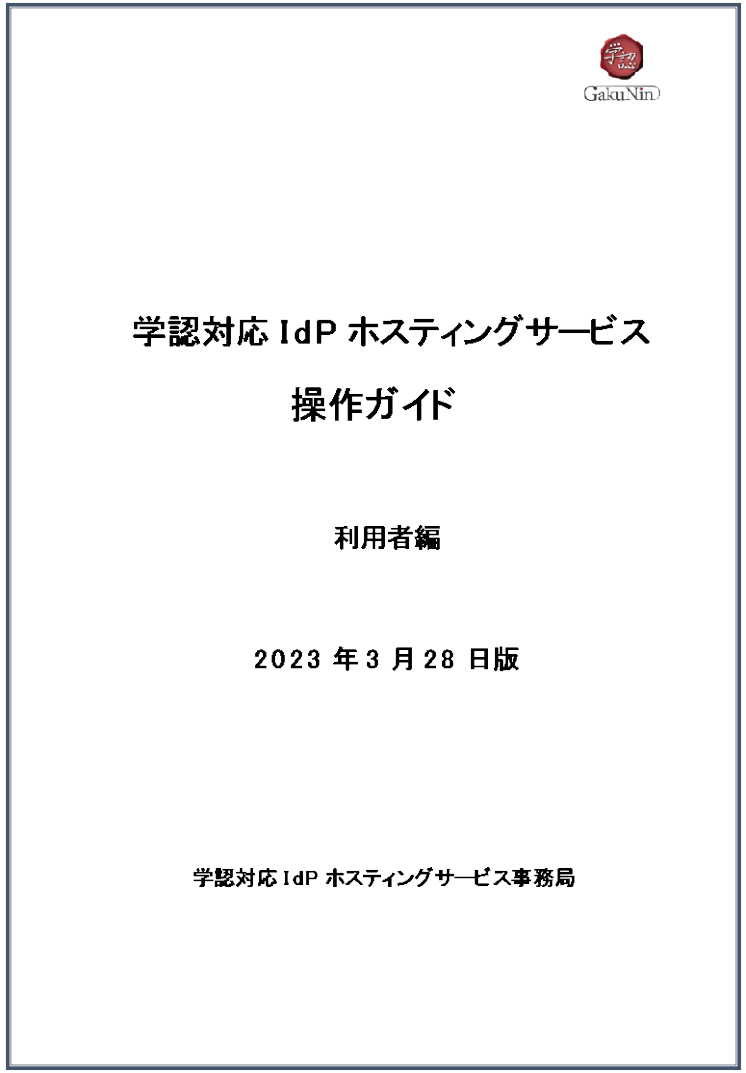
2023 年 3 月 28 日版

学認対応 IdP ホスティングサービス事務局





事例紹介｜
学認対応IdPホスティングサービス　操作ガイド（利用者編）



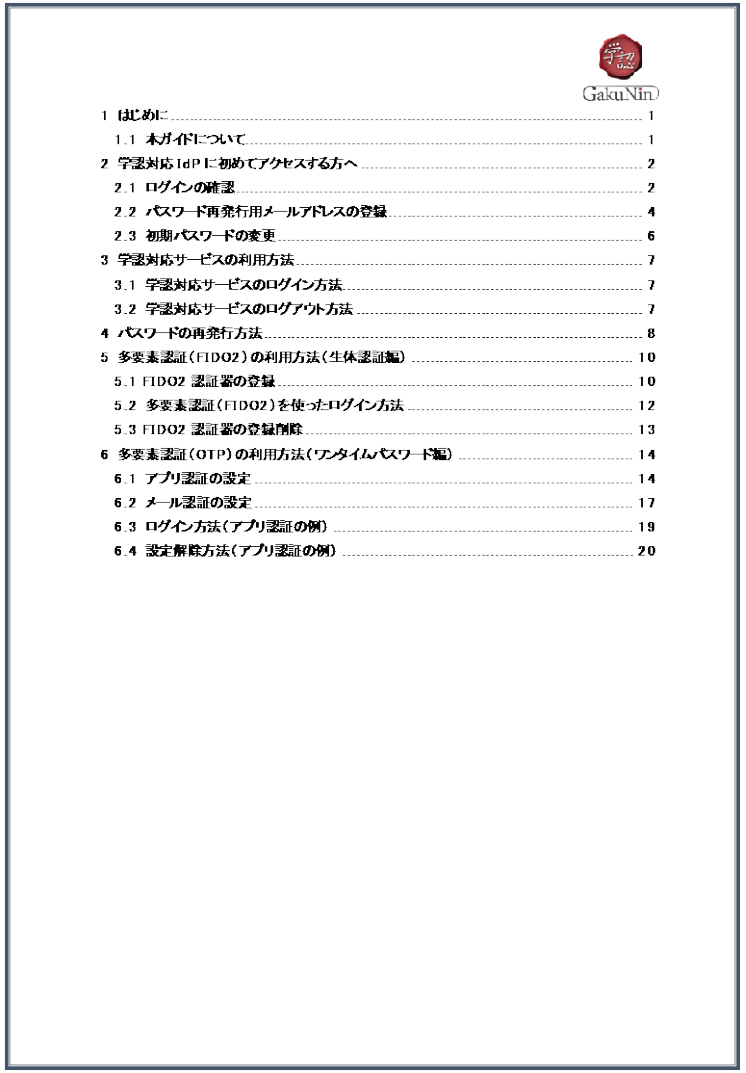
学認対応 IdP ホスティングサービス

操作ガイド

利用者編

2023 年 3 月 28 日版

学認対応 IdP ホスティングサービス事務局



まとめ｜
学認対応IdPホスティングサービス実証実験を利用した感想と今後の課題

よかったところ

1. 情報システム分野の専門部署や人材の確保が十分でなくても、導入が可能である。
2. 維持管理のための設備、人材、費用が軽減できる。
3. IdP認証により利用したい学認対応SPのサービスが使える。
   - 研究データ管理を行うGakuNin RDMが利用可能となり、データの保存、共有がよりセキュアになる。
   - 学認SPの利用により、図書館関連サービスなどの利用が増える可能性がある。
   - 研究機関外からも認証が可能となるため、出張や外勤先、テレワーク時にも利用可能となる。

よりよくなってほしいところ

1. 機関内の認証サーバーとの連携ができないと、IDとPWが異なるので管理が大変になる可能性あり。
2. SPごとに利用申請や変更申請が異なるため、より容易に手続きができると利便性が高まる。
3. SPごとに申請期限、利用開始時期、問合せ先などが異なるため、一覧があると情報検索に助かる。
4. 実証実験に参加した施設との情報交換、事例の公開があると、参考にして取り入れやすい。

今後の課題

- データの利活用や利用方法、研究データ管理ポリシーを共有し、段階的に実現可能内容を整理する。
- 実際に運用を行いながら最適化を進める。
- 既存の研究データ管理からの移行、普及、体制整備などの必要性がある。
- IdPに登録できない共同研究者（例：自治体、保健所、地方衛生研究所）などの登録は別途検討中

謝辞

国立情報学研究所 学術基盤推進部学術基盤課 学術認証推進室
学認対応 IdP ホスティングサービス担当　ご担当者様

学認対応 IdP ホスティングサービス事務局　江川　淳一　様
舟木　俊裕　様

エイチ・シー・ネットワークス株式会社　佐藤　弘行　様

国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系　清水　さや子　先生

国立情報学研究所教育研修事業
国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課
教育研修事業担当　ご担当者様

ご清聴ありがとうございました